

学修成果及び教育効果の検証に関する方針（アセスメント・ポリシー）

1. 目的

この方針は、本学の卒業認定・学位授与の方針（DP）、教育課程・実施の方針（CP）及び入学者受け入れの方針（AP）にそって本学が実施した教育活動による学生の学修成果等について、これを評価し検証するための基本事項、実施内容、具体的手立て等を定め、これによって教育の質保証と学生の学びの向上を図るとともに、適切な教育改善の推進に資することを目的とする。

2. 学修成果

本学においては、AP に基づいて実施された各種入学試験の結果を入学時に有する学ぶ力ととらえ、その基盤の上に CP にそって編成された教育課程を履修することで、学生が確実に身につけ達成する成果を学修成果とする。学修成果の具体的な内容は、学科の DP と各専攻及びコースの到達目標に基づいて示される知識や技能、表現力、理解力、思考力など様々な観点を含めた資料をもって示す。

学修成果は、教養科目及び専攻科目について規定の単位を取得することはもちろん、DP と各専攻及びコースの到達目標で定められた資格や技能も含め、様々な手立てによって検証され、一定の質的水準に達するようにしなければならない。学修成果を高めるためには、教育方法や教育効果についても必要に応じて評価・検証し、事務局と教員が協力しながら、全学で組織的な改善に取り組んでいく。

3. 運用と検証方法

（1）運用方法

学修成果等の評価・検証は、次のことを踏まえて計画、実施、結果の活用にあたる。

①本学における学びによって、学生が確実に身につけ達成している状況を明らかにするものであること。

②学生の社会的職業的自立に向けた指導、就業力育成及び就職・キャリア支援、学生生活の支援等のあり方も明らかにして、適切な学生支援に活用できるものであること。

③本学における教育・研究・社会活動全般の状況を把握し、DP と各専攻及びコースの到達目標の検証を行うとともに、組織運営の見直しや社会への説明責任を果たす際の資料として活用できること。

(2) 検証方法

本学では、DP、CP、AP の三つのポリシーに基づき、短期大学全体レベル・教育課程レベル、科目レベルの三段階で、学修成果等を検証する。その内容は以下のとおりである。

①短期大学生活文化学科の検証を学科の DP の達成度から検証する。内容は、新入生アンケート、退学率・休学率・就職率・進学率、教養科目で目標と定められた資格・免許などの取得状況、短大生調査などである。

②教育課程（カリキュラム）レベルの学修成果が DP と各専攻及びコースの到達目標に揃っているかを検証する。内容は、卒業要件の達成に関する状況、成績状況（単位取得状況、成績分布、GPA）、専攻が目指す資格・免許の取得状況（国家試験の合格状況を含む）、専門関連分野への就業率・進学率の状況、到達指標に関する学生の自己評価の結果などである。

③科目レベルの学修成果を検証する。内容は、科目の単位認定と成績、試験・制作物、提出物などの結果、実技・実習等の結果、出席状況、授業評価の結果、到達目標に関する学生の自己評価の結果などである。

(3) 具体的な評価方法等は、次の表のとおりである。縦軸は評価対象、横軸は時期を表す。

	入学前・入学時 アドミッション・ポリシー	在学中 カリキュラム・ポリシー	卒業時・卒業後 ディプロマ・ポリシー
短期大学 生活文化学科 (全体レベル)	オープン・キャンパス（面接、模擬授業） 入学試験問題・入学試験結果 調査書の記載内容、志望理由書 入学前準備講座（入学前教育プログラム） 留学生日本語能力 英語プレースメントテスト 新入生アンケート（コミュニケーションアンケート：満足度調査）	TOEIC IP テスト実施結果 短大生調査 個人学修計画表 退学者数・退学率 休学者数・休学率 GPA 成績分布状況 インターンシップ参加実績 インターンシップ単位認定実績 海外研修参加実績 全国学生調査（文科省） 短大生調査（大学・短期大学基準協会）	卒業者数・卒業率 修得単位数 GPA 学修成果振り返りシート 進学率（国内外大学、専門機関） （全体）就職状況・就職率 卒業生アンケート 就職・採用先アンケート

教育課程レベル	入学試験問題・入学試験結果	GPA 単位取得状況 成績分布 出席状況 カリキュラムマップ・カリキュラムツリー 個人学修計画表 授業評価アンケート 学習成果に関する報告書 授業の自己点検・評価報告書 各種資格・検定取得状況（国家資格を含む） 学修自己評価シート インターンシップ参加実績/インターンシップ先の評価	GPA 修得単位数 卒業研究・制作・発表 進学者数・進学率 （専門別）就職状況・就職率 卒業生アンケート 就職・採用先アンケート
科目レベル	英語プレースメントテスト	単位取得状況 科目別成績分布 出席状況 授業評価アンケート 学習成果に関する報告書 TOEIC IP テスト実施結果	学修自己評価シート

4. 本学が学修成果や教育効果の評価・検証のために用いる具体的評価方法の時期や対象、手法は以下のとおりである。

	時期	頻度	対象	内容及び手法
オープン・キャンパス	入学前	年 15 回	高校生・社会人	模擬授業と面談で適性を見る
入学試験	9 月～3 月	年 13 回	高校生・社会人	各種面接、筆記試験
調査書・志望理由書	9 月～3 月		高校生・社会人	基礎学力と希望の進路を確認する
入学前講座	3 月	入学前 1 回	新入生	大学の授業の受け方を指導する
英語プレースメントテスト	4 月	入学後 1 回	新入生	リスニングと筆記試験
新入生アンケート	一年次 5 月	入学後 1 回	新入生	入学後の満足度を評価
TOEIC IP テスト	随時	年 2 回	希望者全員	TOEIC の点数を計測する
全国学生調査		年 1 回	対象学生	満足度を計測する
短大生調査		年 1 回	全学生	満足度を計測する

個人学修計画表	半期終了後	年 2 回	全学生	半期ごとに学修到達度を確認する
退学者数・退学者率	随時		全学生	教授会で確認する
休学者数・休学者率	随時		全学生	教授会で発表、確認する
GPA	半期終了後	年 2 回	全学生	学年順位、コース別達成度を確認
成績分布状況	半期終了後	年 2 回	全学生	学年順位、コース別達成度を確認
インターンシップ参加実績	随時	年数回	対象学生	教務委員会で確認する
インターンシップ単位認定実績	随時	年数回	対象学生	教務委員会で確認する
海外研修参加実績	随時	年数回	対象学生	教務委員会で確認する
授業評価アンケート	半期終了後	年 2 回	全学生	教務委員会で確認する
学習成果に関する報告書	半期終了後	年 2 回	全学生	教務委員会で確認する
授業の自己点検・評価報告書	半期終了後	年 2 回	全学生	教務委員会で確認する
各種資格・検定取得状況	年度終了後	年 1 回	全学生	教授会で確認する
学修自己評価シート	年度終了後	年 1 回	全学生	教務委員会で確認する
単位取得状況	半期終了後	年 2 回	全学生	教務委員会で確認する
科目別成績分布	半期終了後	年 2 回	全学生	教務委員会で確認する
出席状況	半期終了後	年 2 回	全学生	教務委員会で確認する
卒業者数・卒業率	年度終了後	年 1 回	全学生	教授会で確認する
学修成果振り返りシート	年度終了後	年 1 回	全学生	教務委員会で確認する
卒業研究・制作・発表	年度末	年 1 回	対象学生	各コース単位で企画
進学率	年度末	年 1 回	対象学生	教授会で確認する
就職状況・就職率	年度末	年 1 回	対象学生	教授会で確認する
卒業生アンケート		年 1 回	対象学生	就職進路委員会で確認する
就職・採用先アンケート		年 1 回	対象学生	就職進路委員会で確認する

5. IR の役割と PDCA サイクルの推進

教育の質および学修成果のアセスメントを最大限活用するために、IR（Institutional Research）室を設置し、IR 活動に積極的に取り組む。IR 室では、多角的な視点から収集した学修成果指標を統合したデータベースを活用し、目的に応じて分析することで、DP に即した学修効果の模索、カリキュラムの効果の検証を行い、入学した学生に最も効果的な教育方法の解明に取り組む。IR 活動によって得られた分析結果は教務委員会と FD 委員会にフィードバックし、次の年度のカリキュラム策定に活用していく。